

令和6年度学校評価結果

桶川市立桶川西小学校
校長 田嶋 貴子

○ 目指す学校像（基本方針） 「子供、保護者、地域に信頼される学校」づくりを目指す

*評価基準について

・A 4点、B 3点、C 2点、D 1点で集計し、

平均3.4以上はA、2.5以上3.4未満はB、2.0以上2.5未満はC、2.0未満はDとしています。

領域	No.	評価項目	自己評価		学校運営協議会における評価
			評価	説明及び学校の考え	
組織・運営	1	学校教育目標達成に向けて、組織的に取り組んでいるか。	B	「かしこく ゆたかに たくましく」の学校教育目標を達成するために、教職員が丸となり、学年・校務分掌の組織を生かし、積極的に教育活動に取り組んだ。	会社のように固定メンバーとちがいで、毎年異なるメンバーで、教職員はよくやっていると思う。学校の自己評価が B であることは不足部分があるとおもうので、その抽出と対応を取るとよい。保護者アンケートより、教職員のひとりひとりの資質等にばらつきがあることがわかる。一定以上の水準を維持するために、共通のテーマでの研修を強化する必要がある。
	2	PDCA サイクルのもと学級経営や教科経営・分掌経営にあたっているか。	B	実施した行事（授業参観・懇談会・個人面談等）は、今後よりよくしていくために見直し・改善することを職員で共通理解し進めている。日課表について、次年度に向けて時程及び内容の検討を行っている状況である。	
学習指導	1	基礎・基本の定着を図るために児童の実態に基づいて授業改善（少人数指導・TT 指導等）に努めているか。	B	年度半ばより職員数が定員に達せず、不足した状態となり、補充職員の確保が出来ず、出張等で担任が不在となったことにより補充を行っているため、職員の配置が予定どおりに実施出来なかった。 少人数指導等保護者のニーズも高いため、子供に「わかった・できた」を実感させる授業の工夫を行うが、実施するための環境を教職員で知恵を出し合い、指導形態を工夫し、家庭学習でも、基礎・基本の定着ができるように努める。	教職員の確保は、桶川西小のみの問題ではなく、市・県・国全体の問題と認識している。働く環境の向上が教職員の資質向上につながる。学校運営協議会としてもサポートしたい。教育指導補助員の増員、活躍の場（勤務時間・日数を増やす）を広げることで、教職員の負担軽減・教材研究へ注力できる環境になる。 学級運営は今後より困難になり、協調しにくい児童もいると思うが、可能であれば、それも個性として捉えられるとよいのではないか。
	2	児童に学習規律を身に付けさせ、学習成果を上げているか。	B	教育指導補助員等を効果的に活用し、個別対応が必要な児童が落ち着いて話を聞くことができる環境を整え、学習成果が上がるよう指導してきた。学習規律では「概ねよい」以上の評価が97%であった。同一歩調で児童に指導できるよう、教職員間の共通理解を深める必要がある。	
	3	学校課題「自己肯定感」を高める学習活動に取り組むことができているか。	B	学校課題研究1年目として、2回の校内授業研究会を実施。併せて、講師の先生を招き、『自己肯定感』について講義いただき、各職員が、日常の授業で、児童の自己肯定感を高めることを意識して、日々の授業に臨んだ。	
生徒指導	1	児童が進んで挨拶、正しい言葉遣いができるよう取り組んでいるか。	B	毎月8のつく日に、朝の挨拶運動（代表委員会・各学級）の取組を行ってきた。挨拶や正しい言葉遣いについて、教師の言動が、児童にとっての言語環境になることを、職員の共通理解として、教師が率先垂範の意識で引き続き取り組んでいく。	あいさつについては、家庭の問題も大いにあると思う。教職員それぞれの特徴を失わずに、教職員の言葉遣いは今後も是非意識的に取り組んでほしい。

教育相談	2	日常観察や教育相談を通じて、いじめや不登校の早期発見、解消に努めているか。 (いじめ防止法に係る評価)	B	学期に1度行う学校生活アンケートの結果などから各児童への対応を行ってきた。また、不登校や登校渋りの児童についても校内で複数の職員・管理職で情報共有し、関係機関と連携を進め対応をしている。 職員の評価平均値が3.36という評価に対し、保護者からの評価平均値は3.10にとどまっている。児童・保護者の思いに寄り添い、今後も組織的に取り組んでいく。	保護者の評価が低い原因は何かを分析し、対応をとることが必要である。寄り添い方も難しいと思うが、教職員が病まないようなケアもしてほしい。児童が日頃どんなことを感じて、学校生活を送っているのか、見ていく必要がある。
健康教育	1	児童の体力向上に向け、体育や体育朝会、外遊びの奨励等に積極的に取り組んでいるか。	B	体育朝会や縄跳び検定、朝マラソンの取組など、出来ることを工夫して行い、体力の向上を図った。令和7年度秋に埼玉県の小中学校体育授業研究会を実施するため、職員の指導力向上の研修の機会を深める。	楽しく体を動かせる環境を引き続き作ってもらいたい。健康教育について、学校の役割を十分に果たしている。
	2	児童に栄養のバランスのとれた食事の大切さを理解させ、食に関する意識を高めようとしているか。	B	毎日の給食を学校HPへ掲載し、食に対する意識を高めた。また給食の時間に「今日の給食」について放送し、児童の栄養についての意識づけを行い、関心を高めることができた。	日本食の基本として、一汁一菜が提供できるとよい。
学習環境	1	計画的・継続的に掲示物を整え、児童の学習環境を整えているか。	B	児童の作品(硬筆・図工作品・書きぞめ等)を時期に応じて掲示し、児童の努力を称えとともに、豊かな感性の育成に繋がっている。教室掲示についても、学習コーナーを設けるなど、児童が既習事項を確認しやすい環境を整えることにより児童の資質能力の育成に繋がっている。	児童の作品がたくさん飾ってあり、いつも校舎内が明るく彩られ、雰囲気が良い。その反面、校舎の老朽化については、大規模改修等の対策をとるべきである。
	2	施設設備の点検を実施し、危険箇所の改修に努めているか。	B	月一回の安全点検と臨時の点検で、修繕の必要箇所について把握し、速やかに修繕依頼を教育委員会へ提出している。職員の知恵で、対応している箇所もあるが、その後の進捗状況についても教育委員会へ確認を進める。	修繕等、教職員対応も経験として良い面もあるが学校用務員の配置を要望したい。
教職員の資質向上	1	校内等の研修を充実させ、教員一人一人の資質の向上を図っているか。	B	今年度より学校の課題研究のテーマとして「自己肯定感」を高めることを掲げ、取組を行い、授業研究会を行った。令和8年度の校外への発表会に向けて、次年度以降さらに研究を深める。	保護者の意見で、「教職員の働き方改革を優先している」とあるが、全くそうは思わない。子供と教育のどちらかではなく、どちらも優先されるべきで、そのバランスが重要なので、信念をもって進めてほしい。
	2	教職員は、倫理確立委員会等を活用し、服務規律の向上に努めているか。	A	倫理確立委員会メンバー(教頭を中心とした各学年職員のメンバー)が順番に指導者となってボトムアップによる研修会を行った。職員一人一人が、自分事として捉え、教育公務員としての自覚を深め、日々の教育活動に向き合っている。	「自己肯定感」を課題研究のテーマとして掲げることはよいと思う。研究の成果を保護者に向けてフィードバックしてほしい。教職員による温度差がでないように、今後も進めてほしい。
家庭・地域との連携	1	学校だより、学年だより等で、保護者や地域に適切な情報発信をしているか。	A	学校だより、学年だよりの発行やホームページの更新により、学校の情報発信を行うことができた。職員は100%、保護者は91.4%がB評価以上の評価だった。その差を埋めるため、さらに、コミュニケーションを充実させる。	保護者への情報発信は丁寧なコミュニケーションをとるようにしてほしい。情報メールの活用が進められるとよい。
	2	授業参観、家庭訪問や個人面談を適切に行っているか。	A	B評価以上の割合が、職員は100%であったのに対し、保護者は86.5%に留まった。保護者のニーズを受け止め、学校全体として、可能な対応を今後検討していく。	